

ME化における シーケンス制御教材の検討

—— フローチャート表現の特徴と問題の分析より ——

研究担当者

開発研究第一部 西見安則
電気化学系研究室

序 文

近年、自動化技術の進歩によって、工場における自動化（FA）及び産業用ロボットの導入が著しい。この技術変化の中で、シーケンス制御における産業用マイコンソフトウェアの比重の高まりによって、制御装置操作員・保全員に求められる技能は、急激な変化を生じつつある。

従って、これら技能者に対する教育訓練は、シーケンス制御ソフトウェアについての理解と作成方法とを内容とすることが求められている。このようなニーズに対応し、訓練カリキュラム・教材の開発を行うためのステップとして、シーケンス制御ソフトウェア技術の分析をしたものである。

研究を行うにあたって、当センター内に「シーケンス制御教材研究会」を設けた。研究会には、下記の諸先生に専門委員としてご参集ねがい、学識経験者の立場から数々のご指導をいただき、報告書の作成、とりまとめにご協力を賜わった。ここに厚く謝意を表する次第である。

（座長） 長谷川 健 介 （東京工業大学教授）
見 城 尚 志 （職業訓練大学校教授）
高 橋 久 （職業訓練大学校講師）
鈴 木 光 （島津理化器械株式会社 部長）
田 中 清 英 （CKD株式会社 課長）

なお、当センターにおいて本プロジェクトのメンバーとして研究に参画したのは、以下の諸君である。

吉 田 敦 （開発研究第一部 部長）
武 藤 栄 （開発研究第一部 電気化学系研究室
室長）
高 橋 辰 栄 （開発研究第二部 事務サービス系研究室
研究員）
西 見 安 則 （開発研究第一部 電気化学系研究室
研究員）

教材の研究は重要な課題であるにもかかわらず、今日まで、学校教育においても職業訓練においても職業訓練においても十分な取り組みがなされたとは言い難い状況である。

本報告は、職業能力開発における教材の問題、とりわけ内容論に立ち入って、教材内容の理解・習得についての問題を取り扱っている。

本報告書が、職業能力開発におけるシーケンス制御教材について考えるうえでの資料として、各方面で活用していただければ、また様々など意見、ご批判を賜われれば幸いです。

昭和61年6月

職業訓練研究センター所長

多賀谷 敏 夫

訓研調査研究資料 第74号

ME化におけるシーケンス制御教材の検討
—フローチャート表現の特徴と問題の分析より—

発行 1986年7月

発行者 職業訓練研究センター
所長 多賀谷 敏 夫
〒229 神奈川県相模原市相原 1960
電話 0427-61-9911(代)
FAX 0427-61-9946

印刷 (有) 藤本 綜合印刷
相模原市田名字曾根上3039-30
電話 0427-62-9501(代)